

2. 派遣職員の日々

東北地方の遺跡調査は、香川県でつちかったはずの知識や経験が通用しないことの多い世界です。出土した土器が縄文時代であることは分かっても、細かな時期はわからない。検出遺構について、宮城県職員が「複式炉」と判断しても、どのような構造なのかわからない。調べようにも直ぐに参照できる文献が手元に無い。さらに、どのようなところに遺跡があるのかといった勘もうまく働かない。

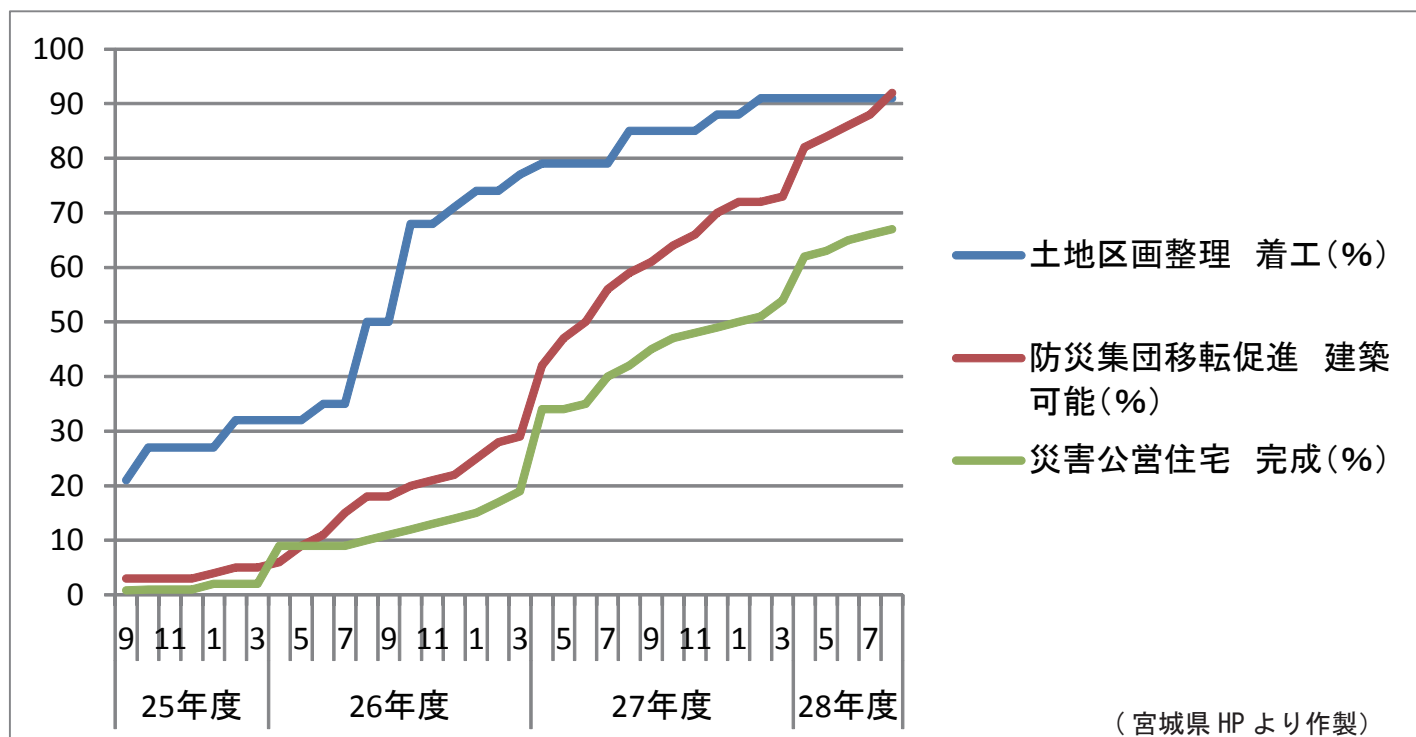
また、調査の手順や手法、体制は自治体によって微妙に異なります。ある自治体での常識が全く考慮されていなかったり、いろいろ戸惑うことが起こります。これが新鮮な驚きであるうちはいいのですが、調査期限が迫って急いで進める調査現場では勝手が違ってストレスになることもあります。

派遣期間中は、いろいろな意味で鍛えられる日々であったといえます。



内山遺跡（宮城県女川町）調査風景

3. 復興の状況



宮城県における住宅関連の復興状況